

人と出会い、つながり長崎がカワル。

長崎伝習所は、昭和 61 年にまちづくりの人材育成とネットワークづくりを目的として設立されました。その名称は、幕末期に長崎に設置され、多くの人材輩出した「海軍伝習所」「医学伝習所」などに由来し、長崎の活性化につながる人材育成の場になるようにとの願いが込められています。



平成 27 年度は、塾事業として長崎で 5 塾、東京で 2 塾が、長崎の特徴を活かした魅力あふれる幅広いテーマで、それぞれの目標に向かって、調査研究に励みました。

また、「塾事業」の他に「つながり事業」にも取り組み、まちづくりリーダーの養成をめざす「ファシリテーター養成講座」では、日本ファシリテーション協会の堀公俊氏を講師に迎え、地域をつなぐことができる人材の育成に取り組みました。

「まちコツアカデミー」では、福岡県福津市津屋崎地区で、対話によるまちづくりを実践している津屋崎ランチ代表の山口覚氏を講師にお招きし、ワークショップを行い、その後実際に現地を訪れるという学びの機会を設けました。

さらに、今年度長崎伝習所は、開所から 30 周年を迎えました。これまでに、263 もの塾が、長崎のまちづくりに関する様々な取り組みを行い、卒業した塾生の総数は延べ、9,239 人にも上ります。塾生同士の人的ネットワークと「市民力」を発揮しながら、「時代の半歩先を行く」をテーマに様々な取り組みを行ってきました。

また、30 周年を記念し、今後の伝習所あり方を考える「50 人ワークショップ」と人気キャラクターくまモンの生みの親である小山薫堂氏を講師にお招きし「長崎伝習所 30 周年サプライズ講演会」を行いました。小山さんご自身の企画術についてふれることができ、非常に多くの参加者の皆さんもご満足いただけたと思います。また、これからの伝習所の方向性についても検討委員の皆さんにご協議いただきました。いただいたご意見のもと、今後も様々な視点から、まちづくりのための人材育成に取り組んで参りますので、多くの市民の皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に、塾長をはじめ塾生の皆さまのご努力と、お忙しいなかご指導いただきました運営委員の皆さま、並びに、長崎伝習所の活動にご協力をいただきましたすべての皆さまに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成 28 年 3 月 長崎伝習所 総長 田 上 富 久

運営委員からのメッセージ



●運営委員 座長 安田 正次

長崎伝習所は今年度設立 30 周年を迎えました。

あらためてお祝いを申し上げるとともに、これまで伝習所の歴史を刻んでこられた塾長、塾生、運営委員、長崎市の職員及び運営委員の諸先輩の方々など関係の皆さまに心から敬意を表したいと思います。

この 30 年間はバブル景気に始まり、街にはカラオケボックスが出現し 1 億総歌手と浮かれ、そしてデジカメが発明されアナログ時代は終焉となりました。やがて狂乱の“バブル祭り”の後、経済は低迷して地方は疲弊し、人口減少という大きな課題を抱えることとなりました。

長崎伝習所はこの時代の大きな変革の中でも常に行政と市民が一体となって人材育成、長崎の活性化に真摯に取り組んで参りました。昨年長崎では明治日本の産業革命資産が世界遺産に登録され次は教会群の世界遺産登録が期待されています。県庁舎、市庁舎、公会堂の建替え、駅前の再開発、新幹線の誘致も進められています。これからの 10 年は長崎再生の年です。次の 40 周年はどんな長崎になっているのでしょうか。

平成 28 年度も活気ある新しい長崎を作り上げる為に皆様と一緒に頑張りましょう！



●運営委員 生月 菜々子

地域の活動において一番大事で一番難しいことは、「続けること」だと思っています。何事も始める時は、同じ想いを持った仲間が集まり、活動が活性化していきます。しかし、活動が一定のレベルに達すると、満足してしまったり、内部で意見が合わなくなって来たり、本来の目的を見失ったり…と様々な壁にぶつかるが増えていきます。手法、時代の流れ、人の生活スタイルなど、現代の変化はめまぐるしいものです。しかし、「想い」を共有し、見失わないこと、且つその時々に合わせて必要な手法や考えを柔軟に持ち、次に繋げていくことが出来れば、その時代を創っていける人材が育っていくのではないかと思います。30周年になる伝習所が今後も皆様と共に、「想い」を持ち続けられるように願っています。



●運営委員 大櫛 格

2月3日の新聞で、長崎市が稲佐山中腹駐車場から山頂にスロープカーを整備する構想があることを知りました。

長崎市街地の夜景はご存じのように、2012年に世界新三大夜景認定を受け、長崎を訪れた観光客の定番コースになっています。今、展望台はその夜景の美しさに感動する人たちの声であふれています。スロープカーはきっと長崎の新名物になるでしょう。

今、長崎市は産業革命遺産の世界遺産認定など、上げ潮ムードです。近く長崎の教会群とキリスト教関連遺産の世界遺産推薦もあります。これらの要素に「人」が加わると素晴らしいまちになること間違いなしです。今こそ人材育成を目的にする長崎伝習所の出番です。



●運営委員 兵働 馨

昨年、長崎市は、「長崎市よかまちづくり基本条例」を制定し、施行しました。この条例は、市民や行政、大学、企業など様々な立場の人たちが、「自分たちのまちは自分たちでよくする」という思いを共有し、協働してこれからの長崎のまちづくりに取り組むために制定されました。長崎伝習所の塾活動やその他のさまざまな事業は、まさに、この協働によるまちづくりを実践するために必要なネットワークづくりやリーダーの養成など、長崎のまちづくりに欠かせない取り組みです。今後の長崎伝習所の進化と一人でも多くの市民の参加を期待しています。



●運営委員 平川 友美

長崎伝習所が創立 30 周年を迎えるということで、今年度は今後の在り方をたくさん議論しました。

その中で感じたのは「30 年も前から協働の考えのもと、地域の活性化に取り組んでいたとは素晴らしい」という思いでした。

世界遺産登録や世界三大夜景認定など、長崎に追い風が吹いているといわれますが、長崎伝習所の活動などが一翼を担って実を結んだのではないかと考えています。

この変動の激しい時代に、ずっと支持される仕組みを作ることには難しい面もありますが、永年にわたり培ってきた塾のノウハウは今後も財産になることと思います。その中で近年の SNS 等の発達により更に身近になった「繋がる」システムなどを検討するなどして、長崎伝習所が益々パワーアップしていけるよう運営委員の一人として微力ですが頑張りたいと思います。長崎の街がより輝くように・・・!



●アドバイザー 森永 春乃

この頃ちょっと時間に余裕が出来たせいとか歳のせいとか以前よりテレビをよく観ることが多くなった。気になるコマーシャルがある。「やっちゃえ!????」

「やりたいことをやっちゃう人生のほうが間違いない面白い」カッコいいフレーズだと思う。

先日の講演会で小山薫堂氏も言っておられた。

「それはやりたいことか？」

「それは面白いことか？」

「たとえ面白くなくても誰かのためになることか？」

何かをする事は「行動する」というモチベーションは実にシンプルなことなんだと改めて思い知らされた。

「やっちゃえ！」



●アドバイザー 山崎 加代子



●監事 佐藤 秀人

私は長崎のまちが大好きです。教会と神社と寺が混在し、眼鏡橋や大浦天主堂や出島跡などを持つ、異国情緒に溢れ風光明媚な長崎を誇りに思っています。

坂と階段に囲まれ自転車が使える場所は少ないけれども、チンチン電車がしっかり市民の足になっていて、安くて美味しいちゃんぽんや皿うどんやトルコライスが、いつでも気軽に食べられる長崎がいとおいしいのです。

でも昭和・平成の時代になって、長崎のパワーが少しずつ低下していきました。

長崎市の人口は明治時代までは九州一でしたが、大正時代に福岡市に抜かれ、

- その仕事は新しいか？
- その仕事は楽しいか？
- その仕事は誰を幸せにするのか？

長崎伝習所 30 周年のゲスト小山薫堂さんの、企画を考える時のポイント 3 つ。うんそうそう。その中のひとつでもピピッときたらまずは仕掛けてみる→更に掘り下げ実施→共有→最終的に人よるこぶ。となったらほんと最高！これまで塾生・事務局・運営委員のタッグマッチでいろんなアイデアがカタチとなってきました。

さてこれからどんな〈サプライズ〉が飛び出すか？また新しい *denden story* が生まれるのが楽しみでもありません♪

戦後は北九州市、熊本市、鹿児島市、大分市に抜かれていきました。

そんな長崎に、近年やっと挽回のチャンスが巡ってきました。モナコと香港とともに世界三大夜景に認定され、軍艦島などの明治時代の産業革命遺産が世界遺産に認定されました。クルーズ客船の寄港数も長崎市が九州で第二位となり、長崎市に訪れる外国人が大幅に増えています。

今年度こんな追い風を味方にして、長崎市は地方創生の特定戦略として、「交流の産業化」による長崎創生を目指すこととしました。長崎市が誇る有形・無形の地域資源に磨きをかけて、観光をはじめとしたさまざまな交流によって経済を活性化することで、雇用を創出し、稼ぐ力を伸ばしていこうとするものです。

ここに至り、人材育成とネットワークづくりを目的にその活動を 30 年間続けてきた長崎伝習所への期待が、さらに高まっていると感じています。長崎伝習所の持つ人材ネットワーク力と市民力を大いに発揮して、「交流の産業化」を下支えして、長崎伝習所が価値ある情報発信基地としての「未来の出島」に変貌していくことが今求められているのです。

ぜひ、あなたも長崎伝習所に参加していただき、長崎のまちづくりと一緒に考え行動し、「交流の産業化」を一緒に進めていただいただけませんか。長崎が好きの人、大歓迎です。